

明石高専 同窓会通信 第6号

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

明石工業高等専門学校・同窓会

TEL・FAX (078) 946-6186

目 次

年頭雑感	藤原 仁	1
JABEE 申請結果の報告	澤 孝平	2
明石高専の近況	松下 幸一	3
「母校の近況」, 「萌友会からのお知らせ」		3
在学生の目から	斎藤 俊之, 青木 智幸	4
他高専出身の教員から見た明石高専	関森 大介, 渡部 守義	5
「全国高専デザコンの案内」, 「事務局からのお知らせ」		6

年頭雑感

理事 機械工学科1回卒 藤原 仁

わが同窓会もまもなく 38 歳……だそうで、年をくった私たちはまもなく二度目の不惑を迎えるような気分です。政治にも営利にも縁のない団体が 38 年間も存続してきたということはすばらしいことですね。「人は 40 歳を過ぎると顔に責任がある」という誰かの言葉がありますが、人間の集まりである組織も 40 年くらい生きのびるとよい顔になるのでしょうか。

ここ数年、年末に「ロボコン」を見るせいか、正月が過ぎたころ、久しく見なかった夢を見ます。例の「あっ、今日は数学の試験が……」というパターンで、目が覚めてほっとすると、いつも在りし日の吉田栄松先生の姿が脳裏に浮かびます。私はずーっと数学ができなかったので、歴代の数学・力学の教官のお顔を順に思い出せばよいはずですが、どういうわけか毎度吉田先生です。そのあとは決まって大根モチ（南中国の家庭料理です）を食べたくなり、冬の風を逃れて台湾に飛んで行きたくなります。

なぜ台湾かという、旧知の L 教授がいつも相手をしてくださるからです。L 教授、いまは教壇を降りて桃園市に隠退の身ですが、昔むかしは吉田先生の学生でした。つまり吉田先生は私たちが生まれたころまで、台北帝大の予科の

教官だったのです。私は不肖ながら L 教授の弟子になるわけですね。二十代の半ばの正月開けに、当時の教授の勤務校であった M 工専（現在は M 科技大学）の機械工程科の主任室を訪ねた日を昨日のように覚えています。

突然の訪問に L 教授はかなり驚いた様子でしたが、「吉田先生の教えた若者なら、まあ間違いはないだろう」とありがたい誤解をしてくださり、以後 30 年の往来が続いています。出会っても機械工学が話に出ることなどなくて、文学や歴史、政治に偏りますが、こんな話題が縁でずいぶん多くの人々と知り合うことができました。相手の上手な日本語に甘えて、ついに私の中国語はお粗末なまま終わりましたが、台湾人の心象風景、歴史観の一端を見せてもらったことは貴重な体験でした。

仕事や生活の場は違っても、青春期に自然科学を基礎とした考え方、ちょっと大げさに言うところ素養を身に付けたという共通点が、互いの安心感の根底になったのだらうと思います。若い会員の皆さんには、職種などに関係なく世界の「自然科学人」の中で自分専用の人の輪を広げてほしいですね。もちろん不惑を迎える同窓会を大いに利用しながら、という意味です。

JABEE 申請結果の報告

専攻科長 澤 孝平

昨年の同窓会通信にご報告しましたように、本校は「共生システム工学」という教育プログラムで、平成 15 年 11 月に JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定審査を受けました。JABEE は大学など日本の高等教育機関で行われている技術者教育のレベルおよびその教育プログラムの卒業生の資質が国際的に通用するものであることを認定するものです。今回の審査の結果は平成 16 年 5 月に通知があり、本校の教育プログラムは見事に「認定」されました。関係された教職員・学生・卒業生・修了生の献身的なご協力の賜物と感謝しております。

ここでいう教育プログラムは、大学などでは学科単位の技術者教育を指すことが普通ですが、本校では専攻科の 2 専攻と本科の 4 学科を複合した教育プログラムで申請しました。

平成 15 年度までに認定された教育プログラムは 61 機関 102 プログラムであり、高専では 10 高専 13 プログラムです。本校は兵庫県で最初に認定された教育プログラムとなりました。

平成 15 年度専攻科修了生 20 名のうち 17 名はこの教育プログラムの修了生として 5 月 29 日に、また、学士の取得が半年遅れた 2 名については 9 月 22 日に修了証書が授与されました。

「共生システム工学」教育プログラムでは、平成 15 年度以前に専攻科に入学した者については専攻科を修了する以外に次の条件を満足する必要があります。なお、平成 16 年度以降の専攻科入学生については、(1)以外は専攻科の修了要件となっています。

- (1)学位を取得すること
- (2)総合試験に合格すること
- (3)TOEIC のスコア 400 相当を取得すること
- (4)研究成果を外部に公表すること
- (5)高専 4 年・5 年・専攻科の間に定められた学習時間を学習すること

このうち、(2)の総合試験とは技術士第 1 次試験

の適性科目、共通科目、基礎科目に相当する試験で、専攻科 2 年次に実施します。また、(5)の学習時間とは、授業等で学生が教員と直接接して学習する時間であり、人文科学・社会科学・語学について 250 時間以上、数学・自然科学について 250 時間以上、専門科目について 900 時間以上、総学習時間 1800 時間以上と JABEE は決めています。

このように、JABEE の要求する修了生の資質を確保するために、専攻科を修了する者の能力をより客観的に評価する必要が出てきました。このことは、従来の修了生も十分に身につけていたことですが、それを認定審査時の自己点検書として明確に示すことにより、本校の高い教育レベルを証明することになりました。

とはいえ、今回の JABEE の審査ではいくつかの指摘を受けており、平成 17 年度にその指摘事項について中間審査を受けることになっています。とくに、授業科目ごとに学習教育目標を具体的に設定し、それを評価する方法を明示し実行することが要求されています。現在これらの要件を満足させるため、より具体的なシラバスを準備しているところです。本校のシラバスはホームページで公開していますので、一度ご覧になって下さい。皆様の学生時代の授業と比較し、ご意見やご感想をお寄せ下さい。

日本の技術者の資格として最も権威のある技術士となるためには、第 1 次、第 2 次の二つの試験に合格する必要があります。最近の第 1 次試験の合格率は 30%～50%です。JABEE の認定を受けた教育プログラムを修了するとこの第 1 次試験が免除されます。そのほか、JABEE 認定プログラムの修了生には今後国際的な資質認定などの得点が付与されるはずです。

母校の教育内容がこのように評価されたことをご認識いただき、皆様の受けた教育を再確認してさらにご活躍いただければ幸いです。

JABEE の詳細についてはホームページ（<http://www.jabee.org/>）を参照して下さい。

明石高専の近況

学生主事 松下 幸一

明石高専同窓会員の皆様、益々にてご活躍のことと思います。私事です。近年は、毎年のように本校入学式には、保護者としての同窓会員の方と顔を会わせる機会があり、懐かしさと月日の経つ早さを感じています。

《高専の法人化》

平成 16 年 4 月国立高専も国立大学の法人化と同時に独立法人化し高専教育の改革・改善が急速に進められてきております。学術の進展、国際化・情報化の進展、技術革新に伴う産業構造、社会構造の変化など高専を取りまく環境も著しく変化してきており、高専においてもこれらの変化に適切に対応する教育の展開が期待されています。

《学生の進路》

本校は産業界に就職した卒業生の活躍によって高い評価をうけており、大変嬉しく思っております。就職状況は本校学生の資質の良さや好景気に支えられたこともあって、極めて良好であったが、バブル崩壊は、急速な景気の後退を導き、学生の売り手市場からは一気に買い手市場に変化して行った。本校においても例外ではなく近年では、求人倍率は相当低下しているが、卒業生が社会か

ら高い評価を受けていることが大きな財産となって今尚数倍以上の求人倍率を保っている。また大学編入する学生が 50%を超える状況があり、就職先の強い希望がなければどこかに就職できる状況は保たれている。

《学生指導》

学生主事として2年目を終えようとしている今、高校の生徒指導の先生と比べると本校は入学してくる学生の質の良さにも助けられ随分楽をさせてもらっている。月に1度市内の生徒指導連絡会に出席し情報交換をしているが「高専の学生指導は楽でいいですね」が定番となっている。近年の中学・高校の生徒指導の現状は、問題行動の数もさることながら内容の複雑さに奮闘されている。改めて本校歴代学生主事の先生方の指導に敬意を表します。

ここに今日までの本校の歴史と伝統を大切にし教職員一同心を新にして人材の養成・学術の進展のため努力を払う所存であります。今後とも一層のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

母校の近況

- (1) 退官 平成 16 年 向山 寿孝 (都市システム工学科), 篠原 寛隆 (電気情報工学科)
- (2) 新任 平成 16 年 渡部 守義 (都市システム工学科), 椿本 博久 (電気情報工学科)
- (3) その他 母校の「共生システム工学」教育プログラムは、2003 年度 JABEE 認定プログラム (工学 (融合複合・新領域) 関連分野) として認められました。

萌友会からのお知らせ

萌友会のこの1年の活動状況です。

3月28日 定期役員会

予算・決算、事業報告と事業計画を検討

5月18日 第6回萌友会総会(舞子ヴィラ)

参加者は約150名で、新会長に笹岡正幸氏(9回)を選出

記念品としてネクタイピン(ブローチ)を作成。平成17年度の会報発行時に会員に送付予定

12月12日 第8回ゴルフ大会

33名の参加者で優勝は杉本豊氏(9回)

1月24日 新卒業生へのオリエンテーション

松下晃己、三木大岳(34回生)の2名が参加

05年は5年に1回の会費納入年です。(会報送付のときに請求いたしますので、よろしくお願いいたします。)

在学生の目から

僕が入学してから5年間の過ぎ、もうすぐ卒業となります。5年間の振り返るとあっという間だったと思いますが、高専は5年前とはいろいろ変わったことに気づきます。機械工学科棟の建替え、独立行政法人化、JABEEの認定など、大きな視点でみれば様変わりしたといえるかもしれません。しかし、その中で学生自身は変わったのかというと、何も変わっていないように感じます。今の学生を一言で言うと、「無気力だが有能」、簡単に言えば「やれば出来るけど、やる気がない」といえます。そして、実際はただ単に「やる気が無い」というよりも「やる気になれない」に近く、より深刻な問題のように感じます。これから高専は大きな面で変わっていくのでしょうか。今年度から語学ホームステイ制度も始まり、将来的には企業や大学の連携も強化されていくのでしょうか。確かにこのような外とのつながりが重要だけど、もっと大切なことは、内側を活かしていくことだと思います。内側は思った以上未開拓の部分が多く、能力の高い人材もいます。以前、何十年前の学生新聞を読んだことがあり、その当時から学生の無気

～明石高専に思うこと～

機械工学科5年 斎藤 俊之

力について書かれていました。外に対する働きかけ積極的に行われていますが、学校の大部分を占める学生に対しての働きかけは何かあったのでしょうか。この5年間、目に見えるような働きかけを感じることは無く、もしかすると、この何十年、変わってないままなのかもしれません。

優れた技術者を育てることを目標とするなら、理系の専門教育・コミュニケーション能力とならんで、技術者としての精神面も重要といわれています。高専では、高い理系の専門教育は行われていますし、コミュニケーション能力は最近、高専でも強い姿勢でとりくまれています。一方、技術者としての精神面への取り組みは、見えていません。とはいっても、やる気になれるようにする事、技術者精神を教育する事は非常に難しいことです。しかし、今からでも何らかの方法で少しずつでも改善していかなければいけないことは確かなことで、それを実現できた時、明石高専は「本当の技術者」を育てる学校なるのではないのでしょうか。

建築・都市システム工学専攻2年 青木 智幸

本校に専攻科が出来て8年目になりますが、昨年度から本年度にかけて学校および専攻科に大きな変化が起きました。一つは明石高専が独立行政法人国立高等専門学校機構へと体制移行したことです。これに伴う学生への影響はまだ感じられません。そしてもう一つが2003年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定プログラムとして、高専4年次～専攻科の計4年間で修了することで本校の「共生システム工学」教育プログラムが『工学（融合複合・新領域）関連分野』に認められたことです。これは、本校の教育プログラムが国際的に通用する技術者を育成できるものとして認められたことを意味します。このJABEE認定にも関連する国際性を養う観点から、TOEIC（Test of English for International Communication）のIPテストが3年前より定期的に本校においても実施されています。

今夏、大学院を受験しましたが、近畿の国立大学においても入試資料としてTOEIC公開テスト

のスコア提出が徐々に義務付けられていることを感じました。恐らく、英語によるコミュニケーション能力を各大学の入試問題で判断するのではなく、国際的に広く実施されている共通試験で評価しようという意味での採用と思われます。また、TOEICは企業や官公庁でも取り入れられており、今後技術者の道を歩む上でも切っては切れない資格となります。よって、学生には英語の自主的かつ継続的な学習が求められています。

明石高専がJABEE認定を受けたことで、国内外を問わずに専門技術者として活躍できるようになります。さらに、将来技術士試験を受ける際に1次試験が免除され、修習技術者として実務修習に入ることができるという利点もあり、JABEE認定の意義はとても大きいといえます。学生一人一人が目標を持ち、基礎学力のみならず、高いレベルのコミュニケーション能力と実践的な問題解決能力を兼ね備えることで、卒業後の活躍の場が益々広がることと思います。

他高専出身の教員から見た明石高専

機械工学科 関森 大介

私は福岡県の北九州高専の出身で、また、山口県の徳山高専に教員として2年間勤務しておりましたので、明石高専の他に2つの高専を知っていることになります。とはいっても、北九州高専や徳山高専を離れて随分時が経っているので、現在、これらの高専がどのようになっているのか分かりません。ですから、ここに書くことは、昔の北九州・徳山高専と今の明石高専の比較の話になります。

私がこれまで経てきた3つの高専は全て工業高専であり、学科の構成は異なるものの、概ね全体の雰囲気は良く似ていると思います。明らかに明石高専が他の高専と大きく違うところは、学校の立地条件と学生の進学率の2点です。まず、立地条件ですが、明石高専は都会に位置し交通の便が非常に良いです。北九州や徳山が田舎というわけではありませんが、明石高専ほど恵まれていません。JRの駅から歩いて学校に通える高専は全国でもわずかです。北九州や徳山は一般交通機関があまり発達しておらず、通学に禁止されている車やバイクで通う学生が後を絶ちませんでした。

続いて、進学率ですが、各高専にも専攻科が設

置され、また大学の編入枠の拡充に伴い、高専全体の進学率も上がってきましたが、特に明石高専の進学率は非常に高く、全国でもトップレベルだと思います。それも、東大、京大をはじめとする難関大学に数多くの学生が進学を決めています。ひとつの学校からこんなに大勢の学生が国公立大学に進学することは、普通高校では考えられないことです。明石高専のこれまでの功績はすばらしく、今後も続いてほしいと思っていますが、残念なことに、壁を壊したり、ゴミを散らかしたり、心無い学生がいることも事実です。学生の本質は決して悪くないと思います。ただ、ちょっとした悪戯心がこのような事態を招いているものと思います。

我々教員は、単なる科学技術の教育をするだけでなく、学生の精神や心の育成、鍛錬にも力を入れ、より良い学生を育て、社会に送り出していきたいと考えています。同窓会の皆様にはお世話になると思います。今後ともご協力をお願いいたします。

都市システム工学科 渡部守義

同窓会の皆さま、はじめまして。平成16年4月に着任しました都市システム工学科の渡部守義と申します。よろしくお願いいたします。今回、"他高専OBから見た明石高専"ということで投稿させて頂きました。

私は10年前に島根県の松江高専を卒業しました。当時と現在の学生の生活状況は、携帯電話ひとつをとっても大きく違っており、単純に学生生活や学校の雰囲気を比較することはできませんので、現在感じている明石高専のイメージをお話させて頂きます。

明石高専の第一印象は、駅に近く交通の便のよい所ということでした。明石高専では当たり前のことかもしれませんが、全国55の国立高専のなかで駅から徒歩圏内というのは他にはないのではな

いでしょうか。ほとんどの高専は学生寮を併設し、多くの学生が5年間のほとんどを同じ空間、同じ人間関係の中で過ごします。これは仲間意識を育み、深い信頼関係を築けるという良い点を持つ反面、人間性を狭くしているのではないかと指摘もされているところでもあります。実際、高専生だから人間性が狭いということは決してありませんが、完全に否定できない点もあります。そのような中で、ここ明石高専では、交通の便がよく、学内に限らず幅広く友人関係を築き上げる良い環境にあると感じています。これが学生にとってどのように影響を与えているのか、非常に興味深く、学生を観察する日々です。

また、縁あって大学生時代に明石高専から編入された2名の先輩と親しくさせていただきました。

当時、大学への編入生の人数も少なかったですが、その中でも明石高専の諸先輩から、学生生活で様々な助言をしていただきました。一方で、とにかく酒好きで酒癖が悪く、時にはひどい目に遭わされた覚えがあります。学生時代の経験の中で私は明石高専の良いイメージと悪いイメージの2つを持つことになりました。実際のこちらに来て、今のところ良いイメージの方に近く安心しております。

ます。

いずれにしても、まだ着任して1年に満たず、ここ最近やっと仕事に慣れてきたところで明石高専のほんの一部しか見ておりません。さらに明石高専の良いところを見つけていけるよう、これからも教職員、学生とともに学んでいきたいと思っております。

全国高専デザインコンペティション2005 明石にて開催

ロボコン、プロコンにつづく第3の全国高専コンテストであるデザコン（全国高専デザインコンペティション2005 in AKASHI）が、明石高専主管で平成17年11月18日より20日までJR大久保駅前の明石市立産業交流センターで開催されます。「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」としてデザインの領域を根本的に捉え直し、全国の高専学生が構造デザイン、環境デザイン、プロポーザルデザインの課題に応募し、設計競技に取り組みます。

阪神淡路大震災後10年を経た兵庫における開催であるだけに、復興+共生をテーマに、地震をはじめ自然災害が生じた際の避難所における生活空間の確保や荷重計算に裏付けられたブリッジの設計、さらに海、河川、ため池等の水辺空間との共生について設計競技が展開されます。

順次、ホームページにおいて情報を発信していきますので、本校のホームページ（<http://www.akashi.ac.jp>）をご覧ください。卒業生のみならずのご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

事務局からのお知らせ

- (1) 会費の納入について 会費未納分がある方は、名簿郵送時に同封の振り込み用紙を利用し
てご納入下さい。
- (2) 住所変更等の連絡について 住所などの変更がございましたら、お手数ですがハガキ、FAX
あるいはE-mailにて下記の同窓会の事務局の方へご連絡下さい。
- (3) 原稿募集 同窓会通信の原稿を募集しています。同窓会への注文、近況報告など何でも結
構です。下記事務局宛にお願いします。

同窓会事務局の電話、FAXを設置しています。不急の連絡は下記の窓口へお願いします。なお、留守番電話とFAXの処理は1週間毎に行いますので、緊急の連絡は在校の幹事までお願いいたします。

〔同窓会事務局〕

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

TEL・FAX (078) 946-6186

〔在校幹事〕

椿本博久（電気2回）

友久誠司（土木4回）

八木雅夫（建築8回）

國峰寛司（機械16回）

江口忠臣（機械20回）

藤原誠之（機械25回）